エコミーティング～建設業と生物多様性保全～

01 尾張西部

日時：2021年6月27日（日）
場所：愛西市　㈱加藤建設

●自然に歩み寄るリーディングカンパニー

「㈱加藤建設」さんは、あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス表彰を受けている、環境保全型建設事業推進のリーディングカンパニーです。
生き物の視点になって建設業のあり方を考えることで、自然の復元や新たな環境の創出を目指す取組みであるエコミーティングを推進しています。また、尾張西部地域の生物多様性保全の拠点づくり（＝ビオトープづくり）を進めています。

▲ 現地視察の様子

●活動報告

【現場視察・エコミーティング参加】
㈱加藤建設さんが生き物との共存を目指して実際に施工中の建設現場を視察させていただきました。その後、生き物の目線から「どのような環境になれば生き物が過ごしやすくなるか」について意見交換するエコミーティング体験をしました。

【ビオトープ整備体験】
㈱加藤建設さんが進めているビオトープ整備の一環として、一般公開に向けて必要な案内標柱を立てる作業を体験しました。

▲ エコミーティング体験

▲ ビオトープ整備体験

●活動を通じて…

生き物の視点で建設事業のあり方を考えるという貴重な体験をさせていただき、考え方が変わりました。「建設事業は自然環境に負荷を与える」というイメージを持つ人は少なくないと思います。
しかし、今回の活動を通じ、生き物の視点で現場を見ること、そして工夫することで、生態系保全を図れることを知りました。
自然と共存できる建設事業について考えるエコミーティングが標準的に行われるようになれば、生き物と共存できる社会に近づくのだと感じました。

▲ ビオトープの案内標柱が完成！！

●主催団体：株式会社加藤建設　鈴木さん

カトケンビオトープ（仮）の整備や、他の現場でのエコミーティングの実施と改善を今後も続けていきます。そのような過程でユースからの目線の意見も取り入れたいと思っています。ビオトープでの園路整備また手伝っていただけたら嬉しいです。加藤建設での活動にまた、個人でもいいので是非参加してください。

アートの島で海岸清掃＆島内サイクリング

02 西三河南部

日時：2021年7月10日（土）
場所：西尾市　佐久島

豊かな海と自然を守るために

「島を美しくつくる会」さんは、佐久島の豊かな自然を守るとともに、島の活性化を推進するため、藻場の再生、海岸清掃、島内の散策路整備をはじめとした保全活動はもちろん、佐久島の地域活性化に繋がる活動も実践されています。

▲ 海岸清掃後の集合写真

活動報告

【海岸清掃】
白浜海岸に漂流しているゴミをみんなで協力して拾いました。その際ゴミの種類に注目して海岸ゴミビンゴも行いました。岡崎市や大府市から流れ着いたゴミもありびっくりしました。

【佐久島の魅力発見：サイクリング】
島内を自転車で周遊し、海の風を浴びながらその魅力に触れました。途中で自転車を降りて海岸や竹林で生き物を探したり、アート作品を鑑賞、体験するなど、さまざまなアクティビティを楽しみました。

▲ 海岸ゴミビンゴ

▲ 海岸のサイクリング

活動を通じて…

佐久島は魅力あふれる自然豊かな島ですが、生物多様性保全の視点からみると海岸ゴミの散在、藻場の減少、島内の不十分な里山整備などさまざまな問題を抱えていることを知りました。

特に海岸ゴミの大半が三河湾地域の都市域に由来していることを知り、海岸ゴミの問題をより身近に感じました。都市域のゴミ削減が豊かな海を守る活動に繋がっているのだということを知ってもらえるよう発信していきたいと思います。

▲ ≪おひるねハウス≫を体験

●主催団体：島を美しくつくる会（西尾市佐久島振興課）三矢さん

GAIAの皆さんには、現場に足を運んでいただいて、佐久島など現場が抱える問題を自分の目で感じることを期待しています。そこからできることは何か、必要なことは何かと疑問を持つことが、生物多様性の活動へ広がっていくことと思います。

刈谷北部地域 外来カメ駆除大作戦

03 西三河

日時：2021年7月17日・18日（土・日）
場所：刈谷北部地域

●基本理念は“環境との調和”

「トヨタ車体㈱」さんは「地球にやさしい車づくり、人にやさしい車づくり」の基本理念の下、「地域と共生、自然と調和する工場」を目指しています。
その一環として「刈谷ふれ愛パーク」を設立し、地域のみなさんがスポーツができる場所、農業が体験できる場所を提供するとともに、自然共生の場としてビオトープも創出しています。

▲ 地域のみなさんとビオトープを観察

●活動報告

【カメのわな設置・捕獲・計測・記録】
カメ博士として有名な愛知学泉大学の矢部隆先生よりご指導を頂きながら、外来カメ駆除活動を行いました。
ふれ愛パーク内の池などにカメトラップ（ワナ）を設置、その後回収するという方法でカメを捕獲しました。

特定外来生物に指定されているミシシッピアカミミガメを捕獲した一方で、在来種のニホンスッポンも捕獲しました。捕獲後はカメのカウント、計測を行いました。

▲ 捕獲したカメの計測

▲ 矢部教授（愛知学泉大学）にご指導頂きました

●活動を通じて…

活動の後、今回捕獲した外来のカメは殺処分されることになるとうかがいました。地域の生態系のバランスを維持するためにやむを得ないですが、とても胸が痛みます。
外来生物は私たちの生活においてさまざまな問題の原因となることが知られていますが、懸命に生きている生き物に罪はありません。
外来生物を悪者扱いするような行動を慎むべきであること、そして私たちと生き物との関わり方を考える必要があると強く感じました。

▲ 参加した皆さんと一緒に集合写真

●主催団体：西三河生態系ネットワーク協議会
トヨタ車体株式会社 志水さん

活動に参加いただきありがとうございました。カメの計測、回収などお手伝いいただきました。持続可能な社会の実現には、若い世代の方々の力が必要です。生物多様性保全に向けて、ともにがんばっていきましょう。

東栄町生物多様性モニタリング調査

04 新城設楽

日時：2021年10月10日（日）
場所：東栄町　のき山学校周辺

●自然溢れる山里学校で発見・創造

新城設楽生態系ネットワーク協議会に所属する「NPO法人てほへ」さんは、平成22年に閉校した小学校校舎を利活用した山里の学校「東栄町体験交流館 のき山学校」を運営しています。この地域では、豊かな里山の景観と700年以上続く「花祭」など独自の伝統文化が継承されています。
自然や風景、歴史、文化、技、人に刺激を受け、ここに集う皆さんが新たなつながりを発見、創造できる「みんなの学校」を目指しています。

▲ のき山学校で行われたてほへ交流会
ピザづくり体験や地元産品の販売がありました

●活動報告

【生物多様性モニタリング調査】
のき山学校を囲む林は適切な間伐や枝打ちなどの管理によって樹間が保たれたスギ、ヒノキと落葉広葉樹で構成されており、生物多様性が高いことがわかりました。
ノギクやミゾソバなどさまざまな野草が生えていましたが、外来植物も生えていました。

【東栄町の魅力発見：豊かな自然とそこに住む人たち】
東栄町を歩いてその魅力を探しました。景観がよく空気も美味しい上、水路を覗くとカニが見つかるなど生き物が多く、都市部とは全く違った魅力がありました。
のき山学校でてほへ交流会が行われており、地域の人達が鹿肉の唐揚げや山菜ご飯を売っていたりしていました。

▲ 生物多様性モニタリング調査
のき山学校周辺を歩いて調査しました

●活動を通じて…

東栄町には豊かな里山の自然が残っていますが、ここも外来植物が侵入していて在来野草の生育地が奪われつつあることがわかりました。また、外来植物を増やさないためにできることを考え実践するべきだと思いました。
のき山学校では東栄町の魅力的な風土の中で、新しい発見、学び、気づきを得ました。多くの人にのき山学校に足を運んでいただきたいです。私達も今後も東栄町で活動をしていきたいと思います。

▲ 観察した植物とその写真をもとに復習を行いました

●主催団体：新城設楽生態系ネットワーク協議会 清水さん

東栄町に本拠を置くプロの和太鼓集団「志多ら」を応援して約30年。11年前に、その「志多ら」とともに「NPO法人 てほへ」を設立し、今理事長をしています。NPO法人てほへでは、ここ「のき山学校」に多くの人に集ってもらえるように、東栄町から管理を任され運営しています。今後も、多くの方といっしょに、山村の伝統文化や技術を学んだり、地域の自然資源（川、鮎、山菜、セリサイトなど）を活用した体験活動ができればと思います。

稲刈り体験

05 尾張北部

日時：2021年10月31日（日）
場所：犬山市　犬山里山学センター

●里山の大切さを伝えるために

「NPO法人 犬山里山学研究所」さんは、独自の調査研究を踏まえ、自然資料の収集および分析、生物・環境講座や観察会の開催、保全活動の実践等を行い、里山の大切さについて世代を超えて発信している団体です。
今回使わせていただいた田んぼでは、耕作放棄されたところを再生する実験を先駆けで行っています。水源がため池なので水をポンプで引き上げなくてもよく、持続可能な稲作ができます。

▲ 稲刈りの様子

●活動報告

稲刈りの作業工程は①稲刈り、②稲を束にする、③稲架掛け、の三段階にわかれていました。どれも体力の必要な作業であることがわかりました。刈る際は腰に負担がかかり大変ですが、刈った後の運び出しも稲が重く想像以上に大変でした。
バインダー（稲刈りと稲束づくりを同時に行う機械）も少し使わせていただきました。また、稲の品種によって稲穂の色や収穫時期、収穫時の稲の倒れ具合が違うというように現場でしか知ることのできないことをたくさん学びました。

▲ バインダーを使う体験

●活動を通じて…

稲刈りは想像以上に重労働で大変でしたが、オンライン授業が多い私たちにとってはとてもいい運動にもなりました。皆で声を掛け合いながら協力して進めていく中で、団結力が高まっていくのを実感しました。
作業の中で周りに目を凝らすと虫やカエルがたくさん見つかり、田んぼを取り巻く多くの生物によって生態系が成り立っていることを感じました。

▲ 稲束を運ぶ準備をしています

●主催団体：NPO法人犬山里山学研究所　永田さん

活動に参加して感じたこともそうですが、普段何気なく気がついたこと、感じたことも多くの人と共有し、そして考え、次へと繋げていってほしいです。

海岸清掃＆海の幸を堪能

06 渥美半島

日時：2021年11月13日（土）
場所：田原市　西ノ浜海岸

●西ノ浜から海の環境を守る

「亀の子隊」さんは「西ノ浜はゴミ箱じゃない！」をテーマに西ノ浜をきれいにする環境ボランティア団体です。自分たちの地域の環境を自分たちの手で守るという地域密着型、地域貢献型の活動をしています。
その中心となるのは海岸清掃、海の環境を学ぶ会の開催、啓発活動（パネル製作や講演会など）の三つです。今回GAIAが参加したエコツアーでは、その三つ全てに参加することができます。

▲ 海岸清掃

●活動報告

【海岸清掃】
西ノ浜海岸で清掃活動を行いました。外国語の書かれているペットボトルや洗剤容器なども見つかりました。海岸に落ちているゴミの多くは遠いどこかから流れてきたものだということがわかりました。

【海の幸を堪能：タッチプールと海鮮バーベキュー】
定置網漁で獲れた地物の生きた新鮮な魚を実際に観察し、触れてみました。その後、焼き魚や刺身にしていただきました。
美味しい海の幸をいただいたことで、改めて、海をきれいにする大切さや海への感謝する気持ちを抱きました。

▲ タッチプール

▲ 新鮮な海の幸

●活動を通じて…

海岸清掃とタッチプール・海鮮バーベキューを通して環境保全や生物多様性の大切さをより一層感じることができました。海岸清掃を続けていくことに加えて、ゴミを出さない社会づくりを考える工夫をする必要があると思いました。
また、海のゴミの現状についての発信にも力を入れていきたいです。今後も海の豊かさや海の恵みへの感謝を忘れないようにしたいと思います。

▲ タッチプールでは16種の生物と触れ合いました

●主催団体：環境ボランティアサークル 亀の子隊 鈴木さん

亀の子隊は、「海をステージにビーチクリーン」をはじめさまざまな体験的な活動を通して「きれいな海を守る　心を広げる」ために活動しています。
今後、GAIAのみなさんと海から見た生物多様性の大切さを訴えていければと思います。

湿地の保全活動

07 東部丘陵

日時：2021年11月23日（火）
場所：長久手市　二ノ池湿地群
（一般の方は立ち入りできません）

●東海地方有数の湿地を守る

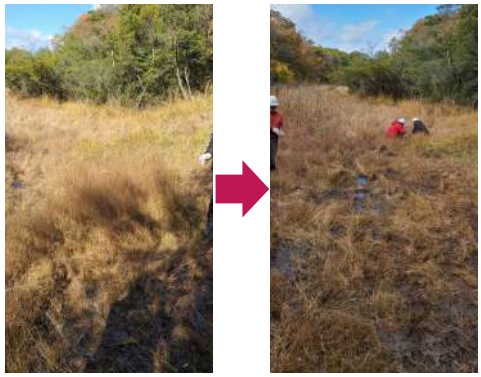
「長久手湿地保全の会」さんは、草刈りや生物調査を通して長久手の湧水湿地を保全されています。東海地方の湿地は貧栄養（栄養が少ない）であることが特徴で、河原のように岩がゴロゴロとしています。
そのためこの過酷な環境に適応した、ミミカキグサやトウカイコモウセンゴケなどといった珍しい植物が多く生息しています。長久手の湿地もその一例です。

▲ 湿地に生育する食虫植物のトウカイコモウセンゴケ

●活動報告

湿地の貧栄養状態を維持するために湿地の植物であるシラタマホシクサなどをあえて刈り取りました。
シラタマホシクサは絶滅危惧種ですが、すでに種子を落としているため来年の生育への影響はありません。むしろこのまま枯れさせると後々に土を肥えさせてしまい湿地の貧栄養状態を保てないので、刈り取る必要があるのです。

▲ 黙々と草刈りしている様子



▲ 30分程度の草刈りでここまできれいになりました

●活動を通じて…

「希少だから」と人間が関わらない保全をするのが必ずしも正解ではないこと、人が手を加えないと生きていけない動植物もいるということを知りました。
「人の手が入ることで成り立つ生態系」があるということを多くの方に伝えていきたいです。
今回は動植物があまり活動していない時期の活動であったため生き物にはほとんど会えませんでした。
春以降に訪れるのが今から楽しみです。

▲ 長久手湿地保全の会の皆さんと意見交換

●主催団体：長久手湿地保全の会　水岡さん

長久手市の『クテ』は、湿地という意味です。湿地は、自然のまま放置すると、やがて森になり消滅してしまいます。貴重な湿地を次世代に残すためには、保全活動が大切です。
若い方には、まず関心を持ってほしいと思います。

「自然再生」その目標像を再考

08 東三河

日時：2021年12月4日（土）
場所：豊川市　東三河ふるさと公園

●山里の景観・茅場の再生

東三河ふるさと公園では、旧東海道の宿場町『御油宿』にみられる近隣郷土の風景をテーマとした公園づくりがなされています。そして「東三河地域環境リーダー」さんは、園内の三河山野草園において里山の景観の一つ「茅場」の再現を目指してカヤネズミの棲む草原の再生に取り組んでいます。具体的な活動は植生の定期的な調査、年1、2回の草刈り、侵略的外来種の駆除です。また、保全活動をPRするイベントを年１回開催しています。

▲ 園内に設けられた茅場

●活動報告

【植生調査体験】
瀧崎先生にご指導をいただきながら1m×1mのモニタリング調査枠を対象とした植生調査を行いました。メリケンカルカヤやセイタカアワダチソウが生えている場所では、他の植物が生えづらくなっているとわかりました。茅場の優占種であるススキを自生させるために、草刈りのタイミングを秋には行わないことや、草刈りを年に1回にするなどが考えられました。加えて、継続して外来種駆除に取り組む必要があることがわかりました。

【「カヤネズミの棲む野草園」という目標像の見直し】
三河山野草園ではカヤネズミの棲む茅場の再生を目指していましたが、学識者から「カヤネズミは周囲に水辺がないと棲めないのでは」と助言を頂いたとのことでした。野草園の目標像はどうすべきか？について意見交換しました。

▲ 茅場再現のための植生調査
生えている植物について草丈や被度を測定しました

●活動を通じて…

草地にはさまざまな在来野草がある一方、外来植物のメリケンカルカヤ、セイタカアワダチソウは周囲の他の植物の成長を阻害していました。茅場を再生するにあたって外来植物の侵入を防いだり駆除したりするのはなぜなのか、自然環境を保全する上でどのように指針を立てるべきなのか、多くのことを学び、考えさせられる活動でした。

▲ 東三河地域環境リーダーのみなさんとの集合写真

●主催団体：公益社団法人 東三河地域研究センター 樋口さん

私達の活動してきた経験が少しでも伝わればいいんじゃないかと思います。情報が共有されていかないと、持続させていくことは難しいです。新しい世代に草花はどうやって守られているかなどノウハウや経験、知識を伝え、互いに情報交換をすることが重要です。

竹林整備体験

09 知多半島

日時：2021年12月5日（日）
場所：美浜町　布土地区内竹林

●豊かな里山と自然を守るために

知多半島の美浜町では外来種のモウソウチクによる放置竹林が増えており森林面積の1/4以上を覆っています。未整備竹林では土壌保全、保水等の森林機能の低下、植生の単調化、景観の悪化などさまざまな問題が顕在化しています。
美浜町竹林整備事業化協議会、通称「モリビトの会」さんは、こうした問題を引き起こしている未整備竹林の再生を進めるとともに、山の幸であるタケノコやシイタケを味わい楽しむ活動、地域農業の活性化に関わる活動、豊かな生態系の回復による田園地帯の観光資源化に繋がる活動を行っています。

▲ 荒れた竹林で竹の切り方を教わりました

▲ 運び出し担当が焼き場に竹を運びます

●活動報告

【竹林整備】
ノコギリを使って竹を切る方法を教わりました。最低一人一本は竹を切ることができました。その後、斜面から竹を運び出す体験もしました。

【ポーラス炭づくり】
伐採した竹を焼いて炭を作り、水で冷まして回収しました。このポーラス炭は微生物の活動を促進させる効果があるので土壌改良材として有効に利用されるそうです。

▲ 竹を焼いてポーラス炭を作りました

●活動を通じて…

モリビトの会の方はさまざまな視点から解決方法を検討されていて、大きな学びになりました。放置竹林と生物多様性の関係やモウソウチクの利活用について、GAIAとしても発信し続ける必要があると感じました。

▲ モリビトの会のみなさんとの集合写真

●主催団体：モリビトの会　玉村さん

ユースや若い世代には竹林を用いて新しい仕事を生み出すことを期待しています。
私達の活動をもっとたくさん、多くの方々に知ってほしいです。